

令和4年度英語教育改善プラン推進事業【千葉県】

☑ 児童生徒の発信力強化のための効果的な指導・評価

☑ 学校種間連携

☑ 英語担当教師の指導力・英語力の向上(小学校担当教師の指導力向上)

当該地域における英語教育の課題

①授業の質の向上

- ・授業における生徒の英語による言語活動の時間(50%以上)が全国平均よりも低い。
中学校(全学年)63.5%(71.3%)、高等学校(全体)46.0%(50.3%)
- ・授業における英語担当教師の英語使用状況(50%以上)が全国平均よりも低い。
中学校(全学年)66.9%(73.4%)、高等学校(全体)40.3%(46.0%)
- ・言語活動を充実させ、児童生徒が実際に英語を使用しながら定着を図るために授業改善を行う必要がある。

②生徒の英語力の向上

中学3年生でCEFR A1相当以上、高校3年生でCEFR A2相当以上を達成している割合がともに下がっている。
中学3年生52.0%(47.0%) ※前回53.5% 高校3年生42.0%(46.1%) ※前回45.3%

③教員の専門性の強化

- ・教員に求められるCEFR B2相当以上を取得している教員の割合が低い。
中学校35.9%(40.8%)、高等学校64.1%(74.9%)
- ・小学校教員向けに指導力向上研修を実施し、授業改善を図る。

【出典】令和3年度英語教育実施状況調査より 本県(全国平均)

<実施内容>

◇小・中・高連携モデル事業【小・中・高】(課題①)

5教育事務所域内で小中高各1校で生徒の発信力を高める授業の様子を撮影し、県のHPにて公開した。

◇生徒の発信力を高めるオンライン英語研修【中・高】(課題①)

理論研修後に、各受講生が学んだ内容を授業で実践し、講師から助言をもとにさらなる授業改善につなげた。

◇外国語教育におけるICTの効果的な活用研修【小・中・高】(課題①)

小中高の校種ごとに活用できる具体的な活動やアプリの紹介を行った。

◇パフォーマンステストに係る県独自問題作成ワーキンググループ【小・中・高】(課題②)

小学校向けの問題を作成し、中高向けの問題は昨年度作成したものを改善し、県のHPで公開した。

◇英語絵本を活用した言語活動実践研修【小】(課題②)

英語絵本を活用した言語活動について学んでいる大学生を小学校へ派遣し、特別授業を行った。担任等は、その授業を観察することで指導方法を学び、自らの実践に取り入れることで言語活動を充実させた。

◇4技能向上English Workshop【中・高】(課題③)

中高教員を対象に、教員の英語力向上及び指導力向上につながる内容の研修を4日間の日程で実施した。

◇小学校外国語スキルアップ研修【小】(課題③)

小学校教員を対象に研修を実施。児童に英語音声の特徴に気づかせる指導法を学んだ。

<成果指標に基づく成果及び検証>

■ 課題①に対する成果検証

授業における生徒の英語による言語活動の時間(50%以上)が前回調査より上昇した。

中学1年生	67.7%	→	69.2%	(+1.5%)	高校普通科	42.7%	→	47.6%	(+4.9%)
中学2年生	63.2%	→	63.8%	(+0.6%)	高校国際科等	95.1%	→	100%	(+4.9%)
中学3年生	59.5%	→	64.8%	(+5.3%)	高校総合学科	52.8%	→	50.4%	(-2.4%)

授業における英語担当教師の英語使用状況(50%以上)が前回調査より上昇した。

中学1年生	68.3%	→	70.6%	(+2.3%)	高校普通科	38.3%	→	50.4%	(+12.1%)
中学2年生	67.9%	→	69.1%	(+1.2%)	高校国際科等	97.5%	→	100%	(+2.5%)
中学3年生	64.4%	→	68.9%	(+4.5%)	高校総合学科	41.6%	→	53.4%	(+11.8%)

【出典】令和4年度英語教育実施状況調査より

「授業における生徒の英語による言語活動の時間」と「授業における英語担当教師の英語使用状況」の結果がともにおおむね上昇している。これは、各種研修において、英語による言語活動の時間を増やすための方策を示してきたことや指導主事が学校を訪問した際には、英語による言語活動の実施状況や教員の英語使用状況について指導・助言を行ったり、授業改善を促すために小・中・高連携モデル事業の好事例を紹介したりしたことで、教員の意識が向上したことによるものと考えられる。

■ 課題②に対する成果検証

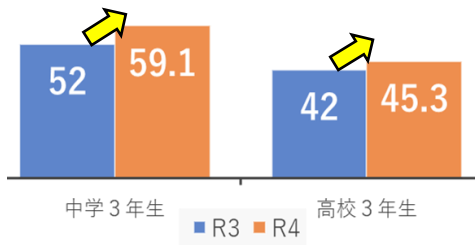
中学3年生でCEFR A1相当以上、高校3年生でCEFR A2相当以上の英語力を有している生徒の割合がともに上昇した。

中学3年生 52.0% → 59.1% (+7.1%)

高校3年生 42.0% → 46.5% (+4.5%)

【出典】令和4年度英語教育実施状況調査より

生徒の英語力



パフォーマンステストを実施する学校が増えたことで、言語活動が増加し、英語力の向上に寄与したと考えられる。また、パフォーマンステストの実施により、指導と評価の一体化が促進され、授業改善が進んだことも生徒の英語力が向上した要因だと考えられる。

■ 課題③に対する成果検証

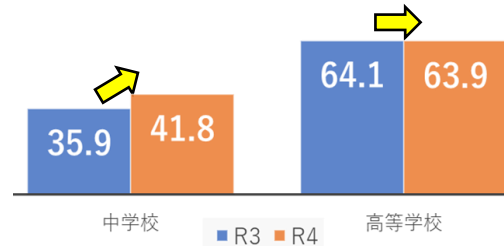
教員のCEFR B2相当以上の取得教員が上昇した。

中学校 35.9% → 41.8% (+4.9%)

高等学校 64.1% → 63.9% (-0.2%)

【出典】令和4年度英語教育実施状況調査より

教師の英語力



研修を受講した教員の英語力だけでなく、指導力の面でも向上が見られた。授業改善が進み、日ごろの授業において、生徒の英語による現活動時間の増加、英語教員による英語発話量の増加につながった。

また、小学校外国語スキルアップ研修において、教員の英語力向上と指導力向上を目的に研修を実施し、指導力向上につながった。

<今後の方向性>

■ 課題①に対して

生徒の英語による言語活動時間の割合と教師による英語での発話割合の両方を向上させ、千葉県外国語教育推進計画で示している目標値100%を目指すために、教員研修や優れた取組の周知を継続していく。引き続き学校訪問の機会も活用し、各校の実情に合わせた指導・助言を行うことで教員の意識向上を促し、目標値の達成を目指す。

■ 課題②に対して

引き続き、パフォーマンステストの実施を促進するとともに、生徒の発信力（話すこと・書くこと）を高める指導に重点を置くための研修等を通して、県全体で授業改善を図り、千葉県外国語教育推進計画に定める生徒の英語力（中学校3年生 CEFR A1相当、高校3年生 CEFR A2相当、ともに60%）の目標達成を目指す。また、ICTを効果的に活用し、生徒が英語を話す機会を増やすことで、生徒がより英語を話したくなるように生徒の意欲を高めていく。

■ 課題③に対して

教員のCEFR B2の資格取得割合について、千葉県外国語教育推進計画の令和5年度目標値である、中学校教員65%、高等学校教員90%の達成を目指す。各種研修や学校訪問の機会を活用し、英語教員に求められる英語力について説明を行い、資格取得を促していく。また、引き続き4技能向上English Workshopや小学校外国語スキルアップ研修等を実施するなど、教員の英語力及び指導力を高めるための研修を充実させていく。

成果普及

○小・中・高連携モデル事業 授業動画

https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gaikokugokyouiku/sho_uchuukou.html

○パフォーマンステスト事例集

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gaikokugokyouiku/performance.html>